

平成30年度県原子力防災訓練の結果について

1 原子力防災訓練実施結果検討会（H31.3.12）における主な意見など

（1）日程など

- ① 訓練日について、学校の参加を促すのであれば、平日または第2土曜日が良いが、住民の参加を考えると日曜日が良い。
- ② 訓練は過去3年、1月から2月に実施しているが気候的にどうか。住民の負担を考えると、より参加しやすい時期での開催について検討する必要がある。
- ③ 全面緊急事態から一時移転までには数日間を要するとの想定だったが、訓練ではこの時間を短縮して、警戒事態の発生から放射性物質の放出、一時移転に至る一連の訓練を1日で行っており、住民の誤解を招きかねない。訓練を2日間で開催することについて検討する必要がある。

（2）オフサイトセンター運営

- ① オフサイトセンターで従事する要員が、個々の役割や通信機器の操作方法等を熟知していない場面もみられた。要員の理解をより深めていくため、事前にオフサイトセンターでの具体的な業務等を把握した上で、訓練を積み重ねていく必要がある。
- ② 国、県、市町等との情報伝達において、うまく情報が伝わらない場面があったので、さらに習熟を図る必要がある。
- ③ 各班での情報伝達は紙ベースであり時間的なロスが大きいと感じた。オフサイトセンター内の情報伝達のあり方について検討する必要がある。
- ④ オフサイトセンターでは、図上訓練と実動訓練を同時に行ったため、一部で混乱が生じた。訓練の実施日を分けるなど、それぞれで実施することを検討すべきではないか。
- ⑤ オフサイトセンターが機能しない場合を想定し代替オフサイトセンターでの訓練も必要ではないか。

(3) 避難

- ① 今回の訓練を通して、生徒の避難誘導について、職員間での指示確認・伝達の重要性を再認識した。また、全校生徒・全職員、近隣の周辺校も含めた原子力防災訓練の必要性を強く感じた。
- ② 生徒の保護者への引き渡しについて、習熟を深めていく必要性を感じた。
- ③ バス移動中のトイレについても検討する必要があるのではないかと。

(4) 避難所の受入・運営

- ① 県域を跨ぐ広域避難訓練では、避難元市町、避難先市町及び県での情報伝達・共有がスムーズにできた。
- ② 避難住民の受入に係る避難元市町と避難先市町の情報伝達において、一部で連絡漏れなどが生じた。また、避難所において、避難元・避難先市町の連携がうまくいかない場面もあった。避難住民の受入に係る避難元・避難先市町の理解を深めるため、県においてマニュアルを作成すべきではないかと。
- ③ 避難先市町への情報伝達について、連絡する回数が多く感じた。実災害時には、何か起こるか分からないので、より効率的な連絡方法を検討すべきではないかと。
- ④ 一部の避難所で、避難住民に対し避難所周辺のマップが配布された。避難住民は、避難先の環境も気にしているので、避難経路だけでなく、避難所周辺の情報も伝えていくことが、住民の安心につながるのではないかと。
- ⑤ 避難所での健康相談時に安定ヨウ素剤の事前配布について相談があった。薬剤師等の配置が必要ではないかと。

(5) 避難退域時検査

- ① 避難退域時検査会場の設営にあたっては、検査住民の動線確保、寒さ対策、雨天対策等に留意すべき。また、テントが風で飛ばさる恐れがあるので、これについても対策が必要である。
- ② 受付から検査場へ向かう住民の動線と、検査場で汚染なしとされ、

安定ヨウ素剤の受領場所に向かう住民の動線が一部交差した。受付から検査場所に向かう住民は、汚染の有無が判明していないので、動線を再度検討する必要がある。

- ③ 案内板が不足していた。また、案内板には文字だけではなく場内の見取り図に番号を付け順路が分かりやすくした方がよい。
- ④ 検査場所での要員間の情報伝達で、受け手に必要な情報が伝達されず検査が一部滞った場面があった。情報伝達すべき内容について、過不足がないよう整理すべきである。
- ⑤ 検査住民について、汚染車両の降車場所から住民検査会場まで円滑に誘導するため、車両の降車場所にも要員を配置し、住民検査場所の要員と誘導のタイミングなど連絡を行うべきである。
- ⑥ 避難車両や住民の検査状況・結果について、県現地対策本部へ報告する手順をマニュアルに記載すべきではないか。
- ⑦ 足底の検査を安全に行うため、手すりや椅子などの補助具が必要である。また、当該補助具の検査、除染についても検討する必要があるのではないか。
- ⑧ 検査場所に段差があり、車いす利用者が苦慮していた。また、車いす利用者の足をあげて検査する場面が見られたことから、これらの方に対する配慮が必要と考える。
- ⑨ 避難退域時検査では、検査までの待機中に不安を感じる住民もいる。現場で、現場の要員から、検査までの時間の見込み等を知らせた方がよいのではないか。

(6) その他

- ① 県から、関係市町への情報伝達訓練として、国の要請文、発電所の状況、気象情報などが送信されたが、これだけでは全体像がつかみにくい場面もあった。可能であれば、県災害対策本部会議での関係資料も提供いただきたい。
- ② UPZの避難の基本は、被ばく量を最小限に抑えるため、屋内退避であることを、引き続き住民へ周知していく必要がある。

2 原子力防災訓練の住民アンケートについて

(1) アンケートの目的

訓練に参加した住民の意見を把握し、今後の訓練の充実等に役立てることを目的として実施した。

(2) 実施日時 : 平成31年2月9日(土)

(3) 実施場所 : 避難所等(関係市町を通じて配布及び回収)

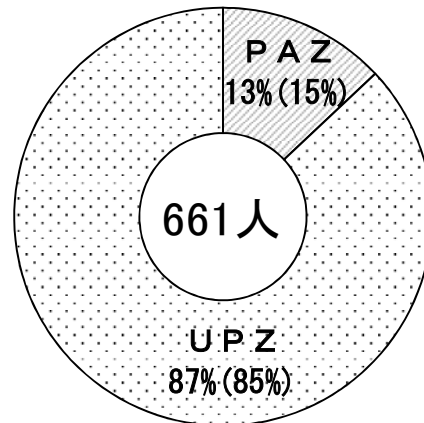
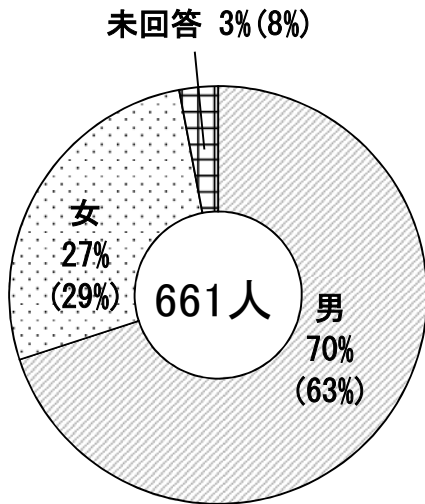
(4) 対象者 : 薩摩川内市, いちき串木野市, 阿久根市, 鹿児島市,
出水市, 日置市, 始良市, さつま町, 長島町の訓練
参加住民

(5) 有効回答数 : 661人

※ ()は、H29年度アンケート結果
 ()がない設問は、今回新たに実施

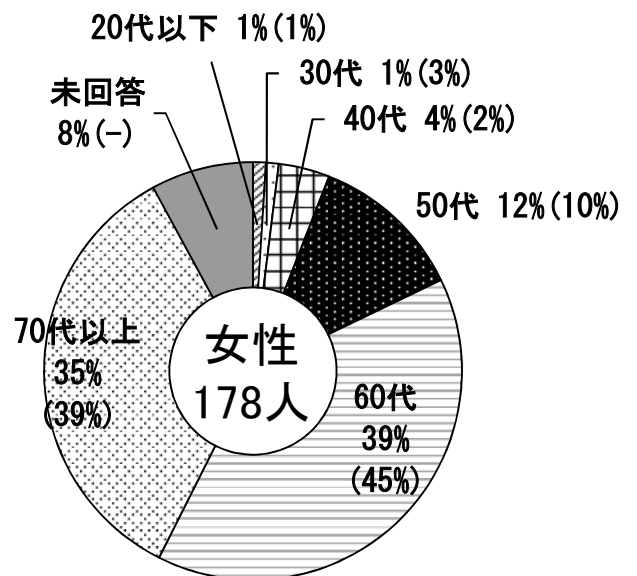
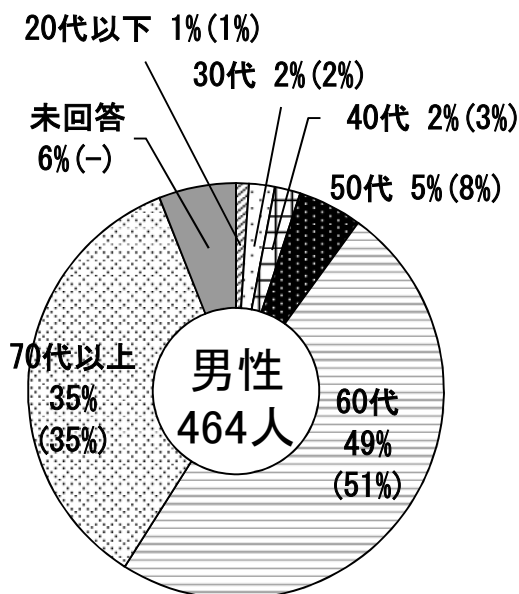
男女比

PAZ, UPZの参加者割合

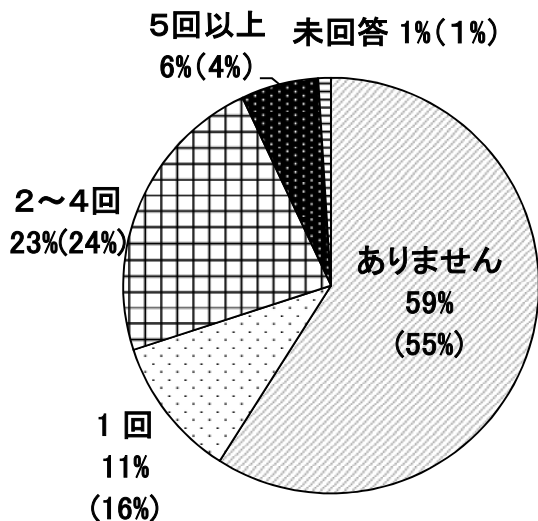


〈男性・女性の年齢層(計642人)〉

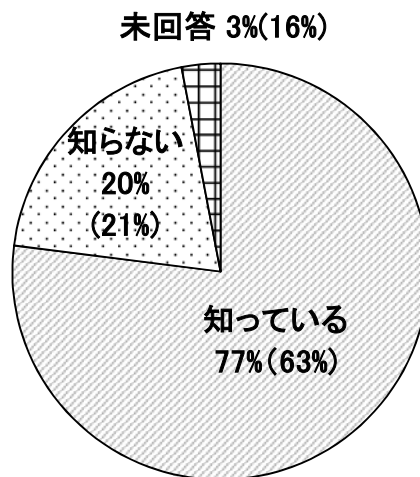
(19人は性別未記載)



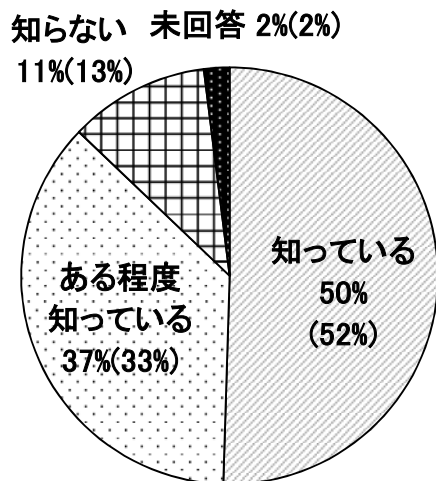
Q1 これまでに原子力防災訓練に参加したことがありますか？



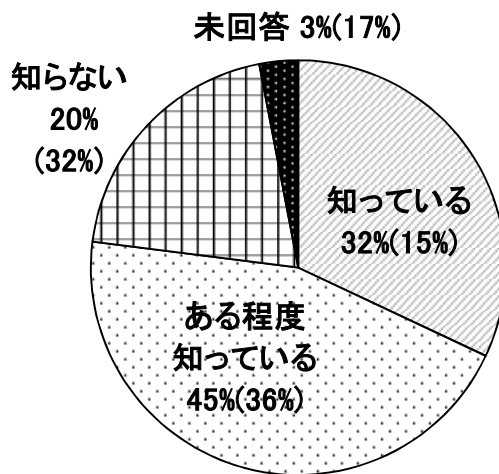
Q2 あなたのお住まいの地域の避難計画を知っていますか？



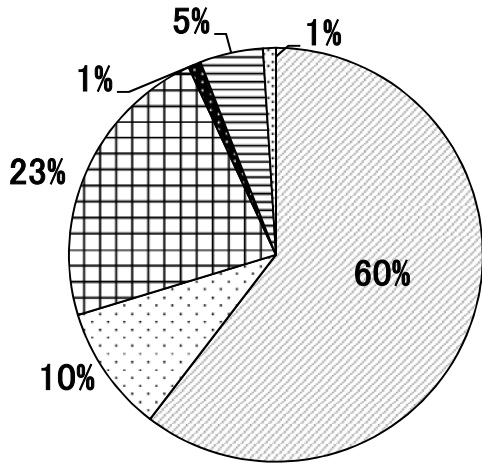
Q3 原子力災害時における、あなたの避難方法(避難集合場所・避難先・避難ルート等)を知っていますか？



Q4 あなたのお住まいの地域では、いつ、どのように屋内退避や避難等を行うか知っていますか？

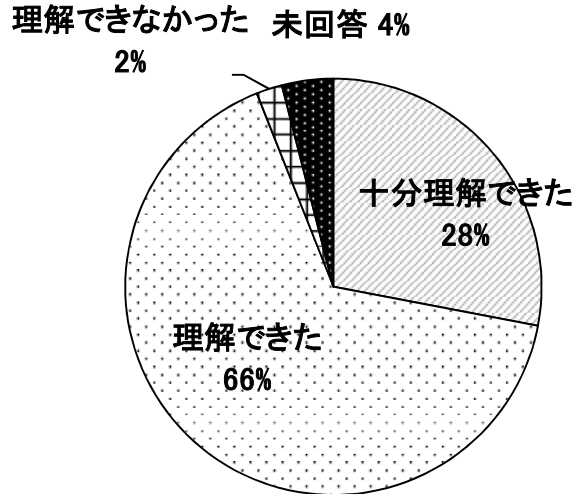


Q5-1 住民の方々へ避難や屋内退避の指示などを伝える広報訓練を行いました
が、何によってその指示内容などを確認できましたか？

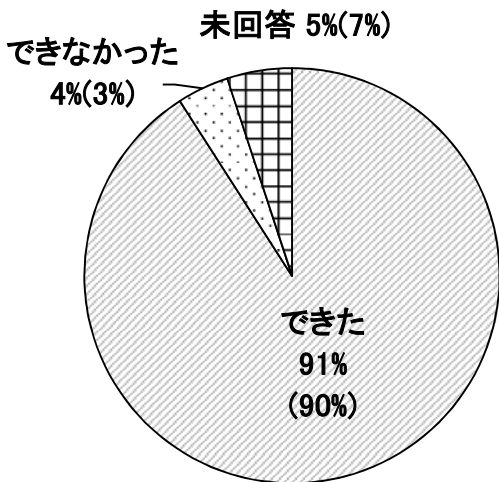


- 防災行政無線 □ 広報車
- ▨ 緊急速報メールサービス ■ ホームページ
- ☐ その他 □ 確認できなかった

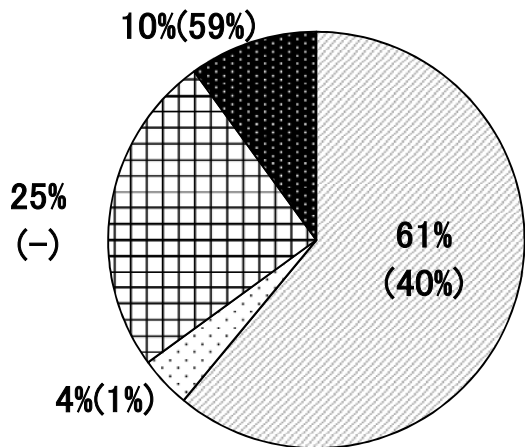
Q5-2 その広報の内容(避難や屋内退避の指示など)は、理解できましたか？



Q6 避難は、スムーズにできましたか？

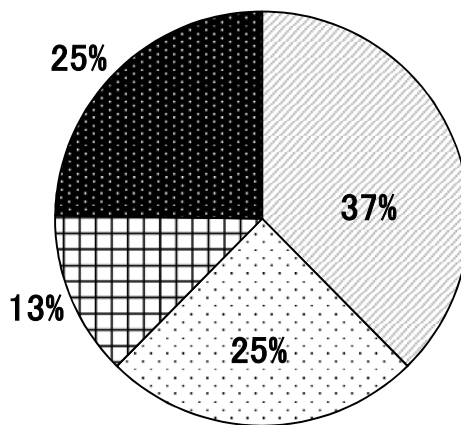


Q7 安定ヨウ素剤の緊急配布は適切でしたか？（職員の対応を含む）



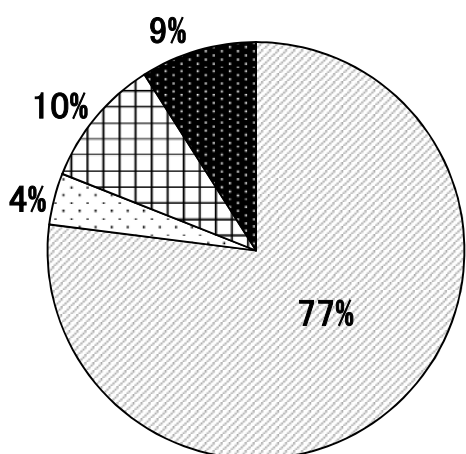
- 適切だった
- 不適切
- 緊急配布訓練には参加していない
- 未回答

Q7-1 不適切とお答えの方は理由をお聞かせください。



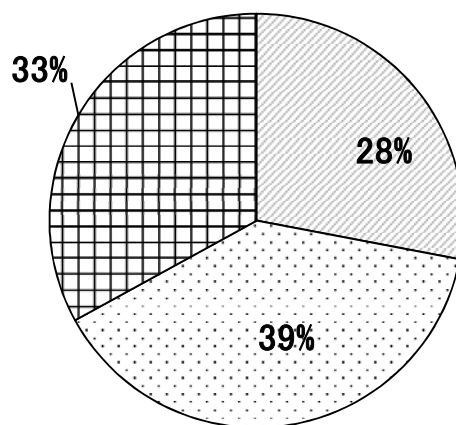
- 職員の説明がわかりにくかった
- 職員の説明が聞き取りにくかった
- 配布場所等への案内誘導がわかりにくかった
- その他

Q8 自宅又は避難所等での屋内退避はできましたか？



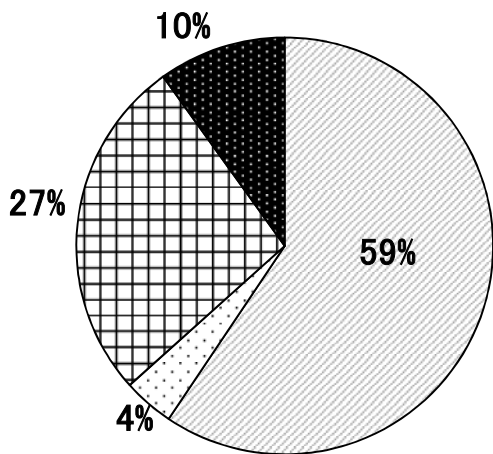
- できた
- できなかった
- 屋内退避訓練には参加していない
- 未回答

Q8-1 できなかったとお答えの方は理由をお聞かせください。



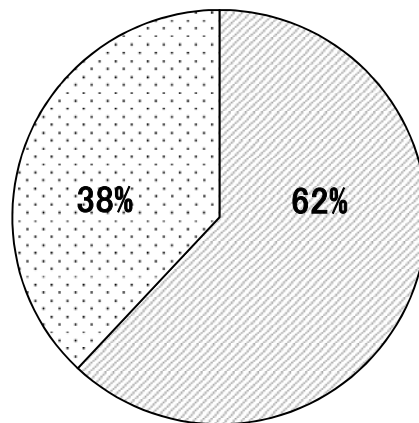
- 屋内退避の開始の指示が伝わらなかった
- 屋内退避では窓を閉め、換気扇を止める必要があることなどを知らなかった
- その他

Q9 避難退域時検査場所での検査の流れは理解できましたか？



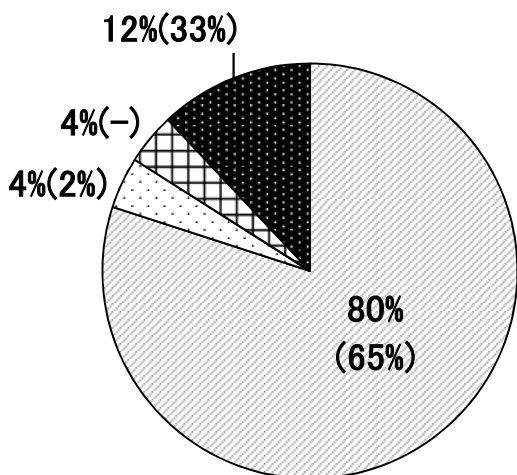
- 理解できた
- 理解できなかった
- 避難退域時検査訓練には参加していない
- 未回答

Q9-1 理解できなかったとお答えの方は理由をお聞かせください。



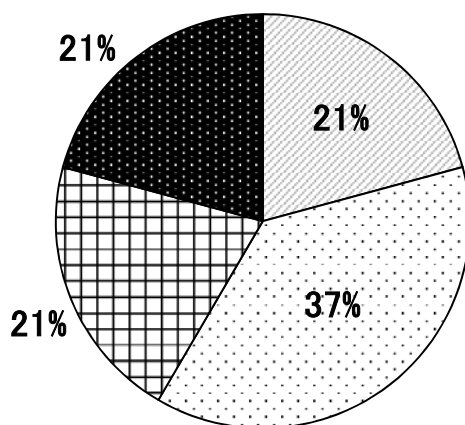
- 検査場所内での説明・案内・誘導がわかりにくかった・聞き取りにくかった
- その他

Q10 避難所の受け入れ対応は適切でしたか？



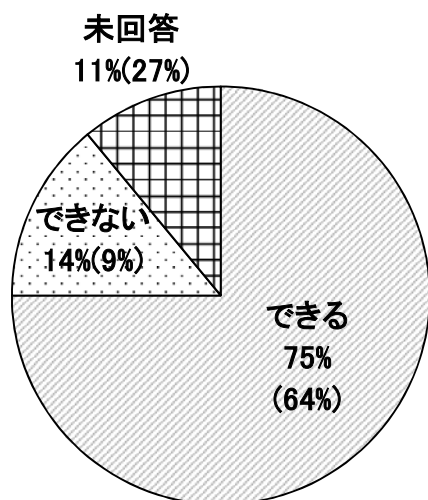
- 適切だった
- 不適切
- 避難所への避難訓練には参加していない
- 未回答

Q10-1 不適切とお答えの方は理由をお聞かせください。

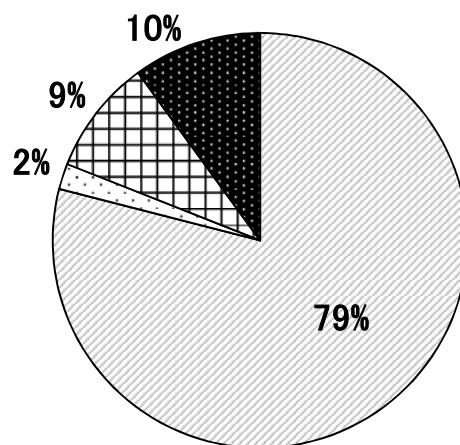


- 受付方法の説明がなかった, わかりにくかった
- 避難所到着後の案内誘導がなかった, わかりにくかった
- 避難所の施設の説明がなかった, わかりにくかった
- その他

Q11 今回の訓練を体験して避難できると感じましたか？



Q12 防災講習会は参考になりましたか？



- ▣ 参考になった
- ▤ 参考にならなかった
- ▦ 講習会には参加していない
- 未回答

主 な 自 由 意 見

1 訓練想定, 内容など

- ① 訓練を年に数回実施すれば理解が深まるのではないか。
- ② 日曜日に避難訓練を実施すれば参加者が多くなったと思う。
- ③ 自治会単位での訓練を行って欲しい。
- ④ 参加者は自治会の役員が多い, 訓練に参加していない方に今後どのようにして体験させるのかが重要。

2 広報

- ① 防災行政無線での広報は繰り返し行って欲しい。
- ② 避難経路についても説明して欲しい。

3 避難

- ① 高速道路を利用し短時間で避難できてよかった。
- ② 避難所までの順路が分かりづらい。各戸に地図を配布して欲しい。
- ③ 自家用車での避難は, 道路の被災や交通渋滞等が懸念される。

4 避難退域時検査

- ① 避難退域時検査を実際に体験できてよかった。
- ② 避難退域時検査場所で説明が十分になされなかった。
- ③ 1, 2台のバスでも検査に時間がかかったので, 自家用車ではスムーズにいかないのではないか。
- ④ 検査場の仮設トイレが和式であり立ち上がれなかった。高齢者や子供のため手すりなどが必要ではないか。

5 避難所

- ① 避難所での段ボールベッドや簡易トイレの使用方法的説明・体験が勉強になった。
- ② 避難所で気分が悪かったが, 声を掛けていただいた。こういった心遣いは安心してうれしい。
- ③ 避難所が遠く現実的ではないのではないか。

6 その他

- ① 講習を受けたことで原発を意識するようになった。
- ② 原子力災害時には, 行政は手一杯になる。自主防災組織による住民の避難状況等の行政への連絡が重要になるのではないか。